

【授業の到達目標および概要】

世界ではいまだに9億人近い人々が食料・栄養不足にあえいでおり、これに対する対策として、単なる保健・栄養・食料分野からの取組だけではなく、国際社会全体で、経済や自然環境、平和構築などからのアプローチが提唱されている。

本特論の到達目標は、これら国際的なアプローチにおける基本的な理念や方法論などを修得し、国際的な視野を持ち、国内外での活用に適用できるようになることを想定している。授業内容としては、国際協力分野がとってきたアプローチの歴史的な変遷、UNICEFなども採用している人権アプローチの概念や手法並びに事例、企画から評価へ一貫した事業運営の方法論について、講義と演習を交えて行う。

【授業計画】

- ① 国際開発・国際協力分野のアプローチの歴史的変遷とその背景
- ② 人権アプローチの概念と考え方、適用例
- ③ 人権アプローチの事例を用いた演習
- ④ 国際協力分野で用いるプログラム立案と評価の考え方と方法論
- ⑤⑥ 国際協力分野のプログラム立案から評価に関する演習
- ⑦⑧ まとめ

【授業外学習】

指定の文献・資料等の予習復習を行うこと

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度や理解度も考慮しつつ、基本はレポート内容で評価する。

【教科書】

特に用いない。課題資料を事前配布、また授業にて資料配布を行う。